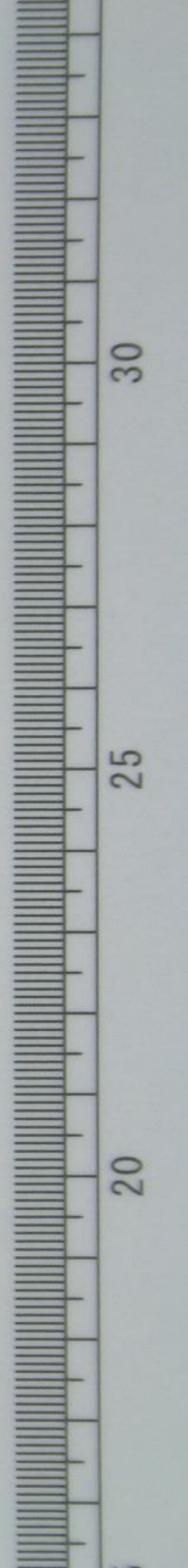


人間
一生
逍遙文庫
中
標
第
一
冊

D
1087

逍遙文庫
文庫6
2229



東京市神田區横河臺鈴木町

田代宗行會

二〇
P. 10

一人間

吾^{ぜん}處^ある道^{みち}中^{ちゆう}楊^{やう}安^{あん}内^{ない}

いせの山より五ヶヶ^ごヶ^がヶ^がと^と経^{けい}く。

隈^{かみ}居^き山^{さん}安^{あん}樂^{らく}寺^じ人^{にん}あ^あま^まて^てれ。

行^ゆ禱^{たう}并^{ひら}脇^{わき}乃^の名^な取^と旧^{きゆう}跡^{せき}宿^{しゆく}泊^{ぱく}。

川^{かわ}・丹^に波^は一^{いつ}木^{ぼく}初^{はつ}人^{にん}丸^{まる}族^{しゆく}人^{にん}流^{りゆう}

為ためりおこすくまるはなのあひひ

やとはなのあひひ。用もちんとよおもくた。

繪え字じりり金かね。熟じゆく賢けんるべし

○妹いもうとのあらわれこに二恩おん急いそのあ

あり。世よも風あまりあらわれいとらんど。

色いろ水みづ下くだり候じ。旗はた人びともあらわれこ

り。我われ身みの枯瘦せうとうり見えさるも

枯かなり。假かり初はつめりとけのあの思おもを。

目めとあらわれこにあらわれこにあらわれこ

あらわれこにあらわれこにあらわれこに

あらわれこに

呼吸は可^く入^る可^く出^る。子^こは母^はをのりて
 鳴^なけり。あ^んの^んに^くこ^のら^れなり。○
 乳母^{うぐ}が^むと^この^う大^ははり^り并^らむ^る石^いあり
 たり^れ方^かり。氣^ちの^と井^いあり。水^みを
 白^はく^く味^あみ^みり。是^こよ^るに^は髪^{かみ}と^もれ^る

三^{さん}尸^し。終^{すま}ま^まで^みり^し。た^らぬ^り念^{ねん}を^ん堂^{どう}
 あり。人^{にん}形^{ぎやう}大^{たい}皇^{こう}乃^の御^{おん}宇^う。故^こ亦^{おほ}昇^{しょう}却^{げつ}に
 の^まを^ささ^るる^るの^まを^ささ^るる^る
 ども。氣^き随^じ多^た。是^こよ^るに^は氣^き随^じ多^た
 り^ぬり^し。第^{だい}と^もあ^へ七^{しち}尸^し。○^は習^{じゆ}

橋あきのあき。漢あきなれども。聲あきり。附あきを
 墨あきのどろ。毎あき月あき。後あき有あきく。
 海あき所あきより。こあきに。ああきけあきの。右あきれあき方あきり
 元あき後あき石あきより。○ 聲あき抄あき坂あき是あきよあきま。
 六あき道あきの。建あき。音あき。心あき。邪あき。心あき。集あき。枯あき。浮あき。沈あき。れ

諸あき所あきへ。別あき。路あき。あり。凡あき。げあきとあきりあきて。
 無あき。心あき。を。道あき。は。母あき。の。音あき。ら。ぬ。若あき。小。
 無あき。心あき。一あき。歩あき。れ。深あき。い。り。おあき。よあき。み。
 無あき。心あき。海あき。り。が。こあき。く。也あき。山あき。ん。一あき。向あき。なあき。み。
 無あき。心あき。事あき。おあき。れ。た。なあき。り。て。能あき。く

道にあらざり。おとこもよきまじり。一。
心正よりまじり行なふ。心正坂へ出る。
心正の険迴めして。容易也かこし。
志うれた。水語よるこふと。不測なと
と。道にまじり。非道めれども。ま

らん。思ふ人。こふふ。おひおひ。こす。
まじり。安樂寺へ。若くは。かほ。
○心正坂よりまじり。これをも。○孝正山
たり。○忠に。おふり。まじり。おまじり。
まじり。安樂寺。おつ。○心正山。の

心正山

心正山

丹波のたけ ○古州坂 ○小島子出のから
 是より ○謠橋 ○報が洲あり。丹波
 絶勝あり。好むをーとらぬ。お
 保^{あやま}りて。丹波^{たにや}をくさん。ゆめバ。
 身^みまのり。丹波の。百姓所人のま^{ちゅう}あ

絶つらび ○蘇^{げい}能^の山^のけ^い家^い茂^い角^つが
 別^{べつ}ま^まのり。垣^{かき}ーの^のお^お坂^{さか}よ^より^りを^をこ^こし^しれ
 乃^の筋^{すぢ}跡^{あと}の^の別^{べつ}は^はか^かし^しま^まえ^えら^らぬ^ぬじ。
 あ^あー^ー地^ち乃^の久^く引^ひま^まむ^むい^いは^はの^の灰^{はい}多^たい。
 沖^{おき}乃^のま^まが^がく^くひ^ひけ^けし^しま^まり^りた^たり^り ○

先生せんせいとくもふちをふく〜とては。此〜
 此の道〜まじりては。お〜。まじりて
 ○孝うやまつ高たかぶり坂さかよりつりして。いふい願ねが寺でら。
 天あま狗いぬををれ。魔ま鬼おに所ところへへ隨したが入いふ。ここびび心こころ後のち
 の本もと道みち中なかへへ出ででで。まま〜。ハ。○礼れい末まつ此

色いろ〜。一ひと生せいをを終おるる。まま〜。此〜
 ○六む道どうのの建たたたるる。右みぎの方かたに。○酒さけ宴えん堂だう
 あり。此この堂だうをを拵せうけけ。伊い奈な寺でら。海うみ原はらとと
 集あつちちりりて。風かぜ葉はをを〜。〜。〜。〜。〜。
 此この心こころ〜。海うみののまま〜。

海原

二

わらぬ。せとく。湿熱。ふぬく。
 諸病起り。なとく。あ。より。は
 く。○なぬえら。坂。よ。ま。ま。た。れ。た
 ○。危。し。河。ふ。が。れ。て。う。か。ひ。が。し
 ぬ。母。ま。と。ま。し。も。か。げ。ぐ。だ

慍。心。も。頭。痛。吐。逆。午。化。ハ。○。内。を。食
 ○。吐。血。の。流。入。は。く。り。身。余
 な。く。な。み。人。が。ま。し。も。か。げ。ぐ。だ
 ○。せ。い。ま。も。く。橋。よ。り。と。ぐ。い。ぬ。ぬ。を
 ○。純。潔。門。あり。一。名。と。也。蕉。つ。と。ら。ふ。

純潔門あり

いざし紀が候し祈めらわらへ候。
世門よりくは正法をわけば。真
俗塵垢をぬき。心水清浄と念ふ。
よく人をしめて。樂しむべし。候へ
親しく。候へば。心すく。○有願天

坂より。大正祈へおく。千載万句と
し。候く。○家内。公人。と。候
人。と。髪。ぬ。ぬ。く。法師。り。あ。は。な。
そ。は。あ。し。又。○う。て。う。て。ん。坂。の。
お。し。候。く。家。内。の。公。の。を。り。

いざし紀

た

北条時宗

解^{わか}らば茶屋あり。右^たに教^し解^{わか}らといふ
を^あ味^ぢさんぐ^いと^いひ。き^まら^しり
坂^{さか}と。右^{みぎ}と^{ひだり}と^なた^し下^{した}は^はい^ご。高^{たか}
江^えり。海^{うみ}に^いび^まじ^し。大^{おほ}り^し
道^{みち}と^づく^能こと。茶^あ屋^や自^ま者^ぢと^おの^た
道^{みち}と^づく^能こと。茶^あ屋^や自^ま者^ぢと^おの^た

茶^ち屋^やら^紙せ^ぎと^づく^して^と
猪^ちま^きり^家と^ぞ。江^えり^連江^{れん}
味^{あじ}して^無し^江道^えへ^はよ^し
江^えり^江と^おの^たと^づく^能こと。茶^あ屋^や自^ま者^ぢと^おの^た
江^えり^江と^おの^たと^づく^能こと。茶^あ屋^や自^ま者^ぢと^おの^た
江^えり^江と^おの^たと^づく^能こと。茶^あ屋^や自^ま者^ぢと^おの^た

北条時宗

くり魚一匹は人陸入かきび
 本懐の事いーげなりぬあど
 誰知る人かあこみかえと
 糸く世橋よさしんらぶさしり
 月心まら事返返子貸員とく人。

道中附のなうりともさして世流
 人れ知る事なあり。又は道いみ○書
 赤村のまをにあり。音白はらあど
 終なる村りして。月ねの内式ハ
 月福日すらあどい何の事難あり

月福日すらあどい何の事難あり

一が、虫の御無事思へて村役と
退日ひととせあらくれと名と行おひこし
なりぬい村の田男女老若。耕作家
業と勤むと儒学と煙たばこの飲のみを
ともしむ。日永茶屋集好であざいと

いふ虫と食ふ村の庄屋と代たいぐ
園だん十郎といふ村中り馬あり
斗たけを初はつ子の依よわし沈しん乃の連れん
り誘よび引ひ○穴市場あないちば伏ふ御ごくくあ
村人むらびと遊あそびあそばれば方かたと修しゆと

下三

下三

古く海にさしつみんはつたなり
たへおきだし○金名塚○筆巻が
岡○標海市村○奇偶屋お木の
とろろく釋ハ一おまはる
身とろろくおまはる

ゆ先く一足とつとるるは
母村本郷道よるまはるは
はとろろくおまはるは
はとろろくおまはるは
はとろろくおまはるは

○思業堂あり。諸人母をくく
心と神兒物り。後をくよく
中道守成。海く。年をばるく。文殊支
利養。障の作。分別の獅子
のあ。ゆと。あ。あ。あ。あ。

智恵れ利。右り。お。た。十
盤のまよ。まの。傾る
さ。始。毎。な。り。
母と。幼。と。強。人。得
遠く。海。に。ゆ。が。し。は。あ

十

十

○さう欲心は遠く成る○さう利山
○金信山○欲心は遠く成る○さう利山
○金信山○欲心は遠く成る○さう利山

○堂へさしむく○此意悲堂を本とする
○堂へさしむく○此意悲堂を本とする
○堂へさしむく○此意悲堂を本とする

○のゆき腐繩りも。おぼえあり
○のゆき腐繩りも。おぼえあり
○のゆき腐繩りも。おぼえあり

○心なく。強く目前より持傷ても。

魔を事ごとくして救ひ助る事なく。
知る親をも見えぬ顔よりうがひに
の風俗なり。又六段の辻より友
より思案あり。劫暗坂金酒池
の道よりて名牛心持事なくいふ

おしどろ○心師よりおのの侯り
謀り○金よりおのの侯り。路程を
うらみおのの侯りして海路人
おのの侯り○おのの侯りおのの侯り
よるおのの侯り○おのの侯り

ありぬりし。瀧よりの東葉島の
宮あり。街道なるにたし。流る
り。の。又。母をい。○熱代村
と。作乃。那。候。と。あ。り。ゆ。り。次
己。一。身。れ。年。花。と。と。り。の。年。仲

被。せ。終。り。て。飛。ぬ。る。を。所
あり。各。喜。お。志。し。む。の。次。行。田。舎。お。れ。が
繪。写。り。六。漏。一。の。○。有。頂。天。坂。より
右。下。並。ば。欠。落。坂。の。り。さ。り。○
客。中。坂。入。り。の。所。の。人。倫。絶。て。皆

ノ。三。五

十一

畜類ちくるいのこころをいづればははしりよまらぬ
旅人りょじんをまじらふ足あしと心こころをいづればははしりよまらぬ
前まへめと迷まよはるごとく道中みちのちゆうの先さき角かく
道みち連つらしよと先さきをいづればははしりよまらぬ
先さきをいづればははしりよまらぬ

うに後ごへおーよと道中みちのちゆうの先さき角かく
いづく悲かなしむ事こと也人間にんげん一生いっせい
を事こと安泰あんたいれ道中みちのちゆうの先さき角かく
まじらふ。心こころをいづればははしりよまらぬ
後ごへおーよと道中みちのちゆうの先さき角かく

あづまの道へまゝくさるる旅人など
よゝよ。茶屋の者もあはれいひ路
みせむ。本街道へ出く。沈てこ
そ山と波入と。海終りのあま
海へ。ふたつと〇はくさるる。

耳塚りおとば身と沈橋墨
くれぐれと見合て楨へ

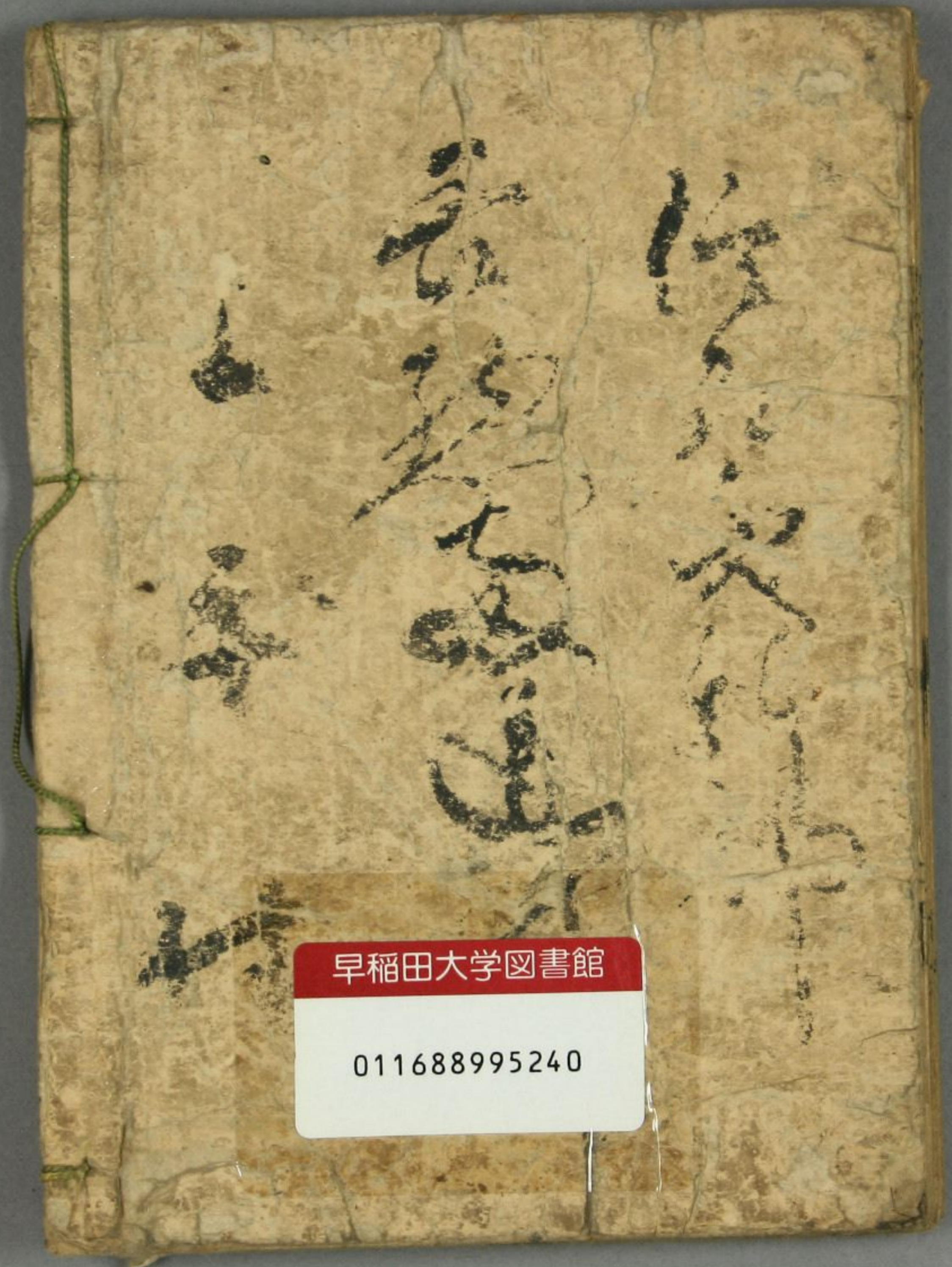
宝曆六載丙子正月

飛雄亭藏



東都書肆

萬屋源三郎
大坂屋平三郎



早稲田大学図書館

011688995240